

左院在職中雜書



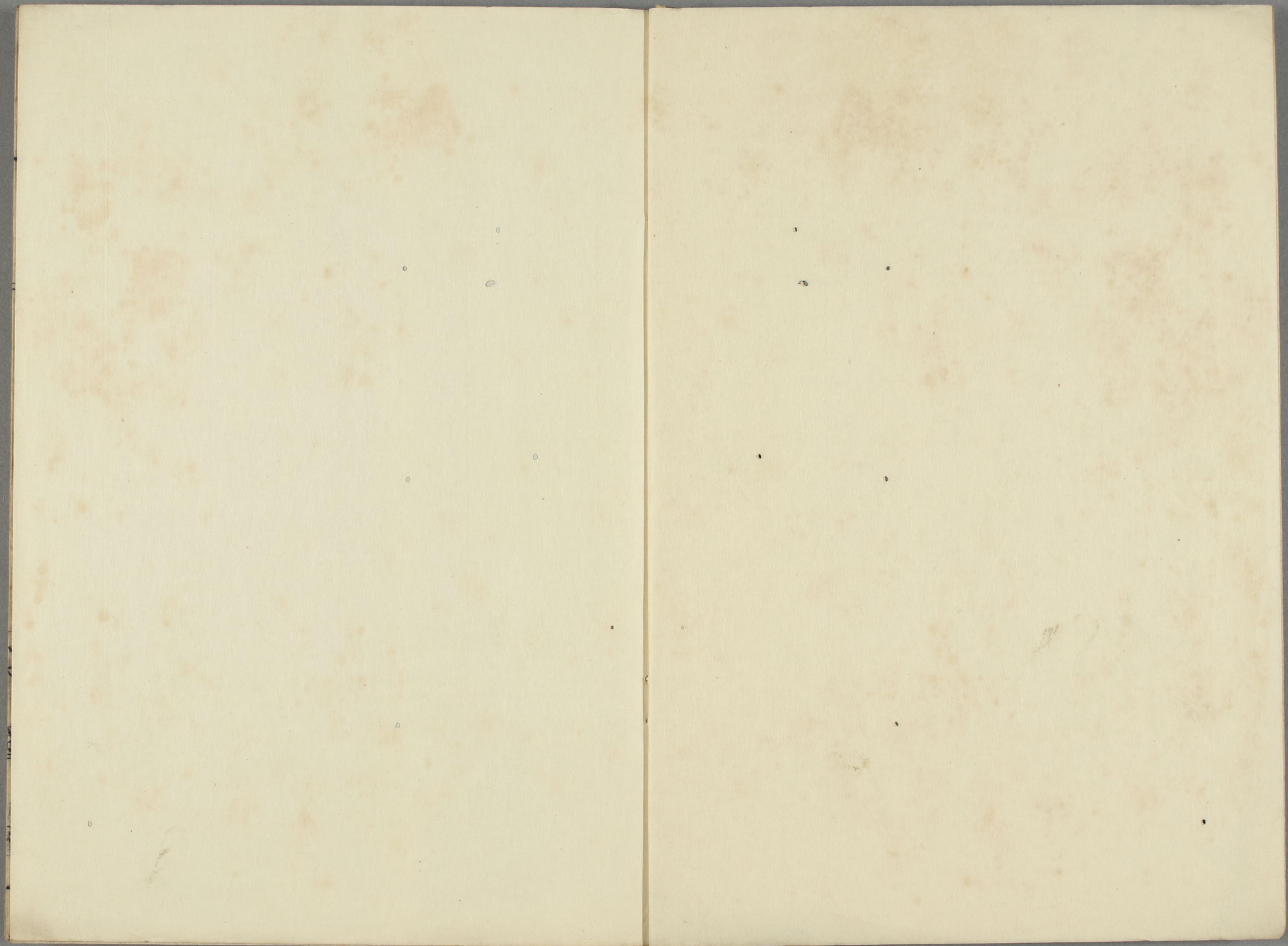
早稲田大学図書館

文書 27

B 93













多岐にわたるが、その中でも、  
① 化学の基礎知識の習得  
② 実験技術の向上  
③ 論文の執筆能力の向上  
④ 英語力の向上  
⑤ 教職試験の対策  
⑥ 就職活動の準備  
⑦ 健康維持  
⑧ 趣味の pursuit  
⑨ 人間関係の構築  
⑩ 自己啓発

英語の勉強法として、  
① 単語帳の活用  
② 文法書の読み直し  
③ 英文ニュースのリスニング  
④ 英文映画の鑑賞  
⑤ 英文小説の読み直し  
⑥ 英文新聞の読み直し  
⑦ 英文雑誌の読み直し  
⑧ 英文サイトの閲覧  
⑨ 英文メールのやり取り  
⑩ 英文ブログの閲覧





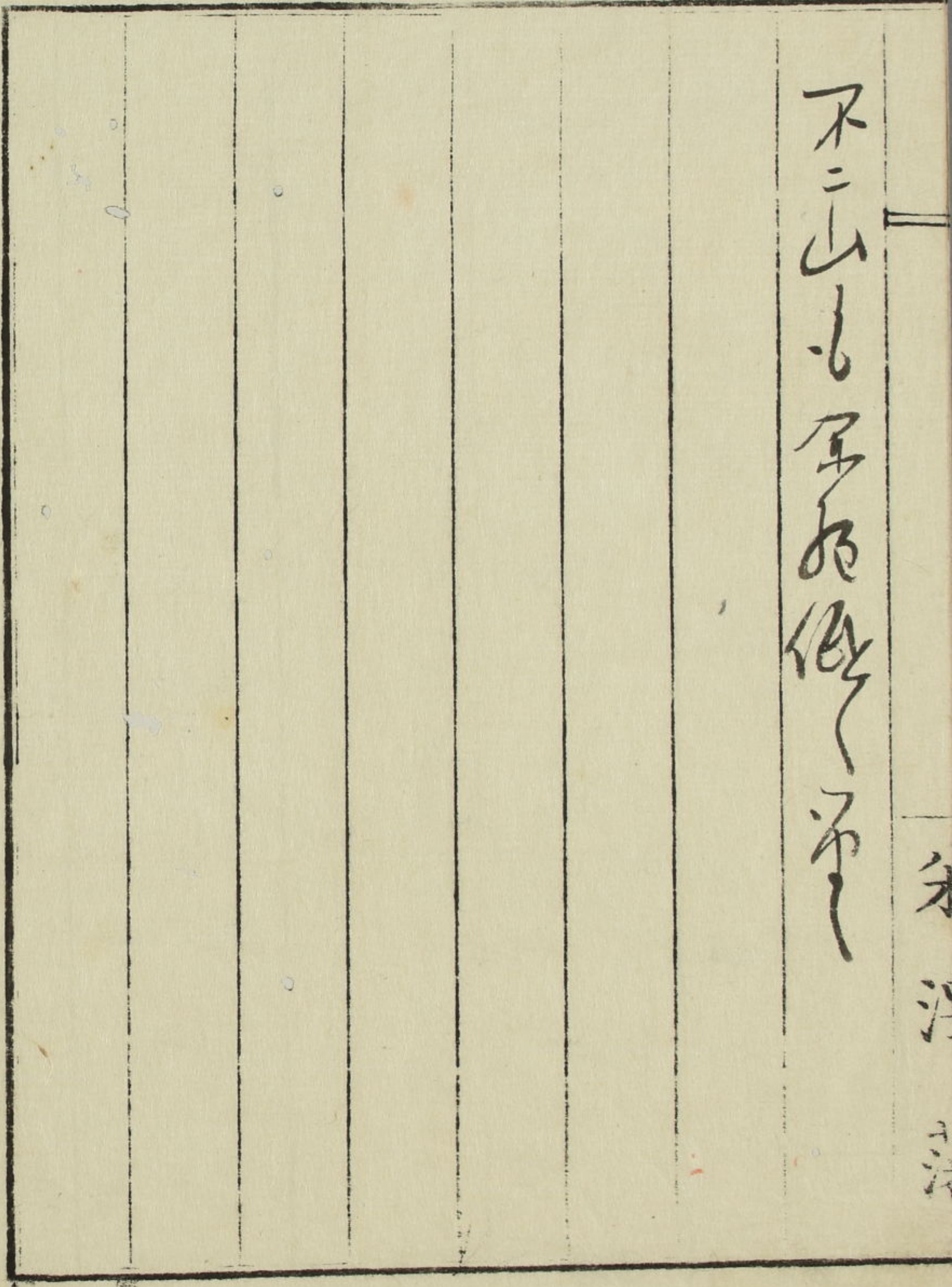






不二山七字為依く不

朱澤清



置賜縣士族

寺島太一

年齡三十歲

右性質淳直柳楨<sup>三</sup>我職業<sup>ヲ</sup>勉勵<sup>可</sup>

一漢籍十人並

一年跡八回

一算術八回

一戊辰年精撰撤兵隊長<sup>ト</sup>於越地

敵營進<sup>ル</sup>甲敵<sup>ト</sup>殺傷<sup>ス</sup>乙敵<sup>ト</sup>三輩<sup>ヲ</sup>思

刃<sup>ト</sup>右互接<sup>テ</sup>熱身<sup>ヲ</sup>被<sup>レ</sup>創<sup>ス</sup>所<sup>ヲ</sup>死<sup>ス</sup>

一五

完



下木肺の推り九死及層層之新憲親其初野  
好我特別之賞又行之士格進公然ニ肺病之皆  
創り呼吸者之好旬幸之医療則ハリハリ厄瘡  
更に勤王の侯ヲ取リ飽々創餘ニヨリ且舊者  
卒未し士民平均之改革ニ會し身を我に持る事  
海右之法ヲ未嘗ナク有るに如く舊者復逆其  
也漢の飽ありし地易に官軍在ラシムル必ク當ララン  
若くは得者亦也憐に平生之志愛ヲ集むに不  
知縣兵士之規模ニ我ニ好改及終終我ニ  
有感ニ以賞一人勅万人ノ心ニ注意シテラ  
撰考

たわやう等級のしやん本院に公裁仰ク似ラ性  
行履歴ヲ具陳候也

明治七年七月

宮嶋謙官

伊地知誠長



正七位

租税寮七等出仕和歌山縣貫屬士族由良守應  
領首再拜書ヲ大藏省事務總裁參議大隈公  
閣下ニ致ス臣ノ勸農助ヲ以テ海外ニ航スルヤ今唯  
牧畜ノ法ヲ學フニ在リ是ヲ以テ經年ノ際一意馬牛  
ノ事ヲ講究シ米ヨリ英ニ赴キ英ヨリ佛ニ往キ而シテ  
和蘭而シテ日耳曼而澳復太利亞歷ル所既ニ多  
クハ得ル所モ亦少ナシトセス乃チ竊カニ自ラ謂フ  
或ハ以テ牧畜ノ法ヲ聞クニ足ラント馬牛及ヒ器械  
ヲ購ヒ滿舟附載將ニ以テ皇恩万一ノ報效ニ供セ  
ントスル也歸レハ寮廢スル既ニ久シト聞ク因テ懊惱  
樂ニマサル者數日尋テ之キヲ勸業課ニ表ク課中ニ



試験場アリテ四ツ谷ニ在リ耕種牧畜ノ法ニ従事ス  
ト聞ク又自カラ慰メ以テ謂フ寮既ニ廢スト雖モ猶  
此課アリト入テ事ヲ視ルニ及ハ則チ其務ノ唯糸ト  
茶トニ在テ復タ馬牛ニ管スル者アルナシ退テ竊カニ  
自カラ嘆ス士ノ仕ニ就ク已レカ学フ所ヲ行ハント欲ス  
レハ也今乃チ此クノ如シ其素餐歲月ヲ玩愒セン  
ヨリハ寧ロ病ニ移ミテ以テ試畝ニ老スルニ如キヤト既ニ  
テ翻然自カラ悔テ曰ク臣ノ皇恩ニ浴スル亦既ニ渥ニ  
明治元年五月始テ徵シニ大坂北司農ニ就キ未タ  
数月ナラサルニ府中兵馬ノ事ヲ管ス二年後藤大坂  
府知事ニ從ヒ東<sup>下</sup>民部省物産司判事ニ任ス

爾後租税通商地理三司ノ大佑ヲ歷テ皆馬牛ノ事  
ヲ管シ民部省廢スルニ及テ亦勸農助ヲ以テ海外  
ニ遊フヲ得タリ臣ノ此ニ至ル豈他ラニヤ亦唯牧畜ノ故ヲ  
以テナリ然ラハ則チ朝廷豈遽カニ臣ニ命スル所以ノ者  
ヲ忘レニヤ蓋シ其時ヲ待テ未タ發セサル身且ツ夫レ巨萬  
ノ資ヲ費シ已レカ学フ所ヲ遂ルヲ得テ未タ天下ノ為ニ  
一利ヲ興コス能ハス是恩ニ負クノ甚ニキ者安シク所見ヲ  
陳シ以テ其取捨ヲ候フニ若キヤト是ニ於テ敢テ牧畜  
ヲ開クノ法ヲ概拳シテ以テ之ヲ左右ニ質ス夫牧畜ヲ者  
ハ農事中ノ一部分タリ西洋諸國民皆牛ト麥トヲ  
食フ亦猶ホ我邦ノ米ト麥トヲ食フカトキ也是ヲ以テ



我邦ハ郷トシテ米ヲ種サルナク彼國ハ地トシテ牛ヲ  
牧セサルナシ但通邑大都ハ併セテ乳酪ヲ鬻クヲ利ト  
シ山村僻郷ハ兼テ運輸ヲ事トスルヲ便トス獨リ其内  
ヲ食フミナラサルナリ我邦内食ノ行ハレヨリ茲ニ數  
年全國ヲ通シテ其屠ル所ヲ算スルニ一日三百頭ニ  
下ラサレハ一歳ノ通計凡ソ十萬九千頭百余タリ其他命數  
尺ミキテ死スルモノ或ハ此節国内ニテ行ハル傳染病ニテ  
斃ルモノハ此數ニ加ヘス而シテ其生スル所ヲ概スルニ十萬  
頭ニ過キス其レ何ヲ以テ農耕運輸ニ供スルヲ得ニヤ  
是レ其價ノ日ニ騰貴スル所以ナリ内ハ北ノ少カキ者  
ヲ最トスレハ二三年ノ後其死ナサル者ハ唯老牛ニ止リ

配スルニ西洋ノ良牡ヲ以テスト雖凡亦當ニ乳孕ニ堪ヘサ  
ルルキ也然ラハ則チ其憂タル豈淺クナラヤリ雖然獨リ  
牛ノミナラス馬ニ至テモ亦然リ騎兵ノ備馬車ノ設歲ニ  
其額ヲ増シテ蓄息ノ法未タ立タサレ故十年ノ後其  
憂必ス以テ牛ニ異ナルナキニ至ラニ臣嘗テ海内牛馬ニ  
宜ミキノ地ヲ按スルニ馬ハ三陸ニ羽ヲ推ニテ之レカ最タル  
所ニハ岩手縣下ニ宮古ク嶽ケ崎キ等諸邑アリ青森縣  
下ニ五戸ハ戸等ノ諸邑アリ鬼首村ノ栗原郡ニ  
於ル岩手山ノ郷ノ玉造郡ニ於ル是皆水澤縣ノ所  
管ニシテ江刺郡及ヒ宮城縣モ亦以テ牧畜法ヲ推  
ク可シ牛ハ山陰山陽兩道ヲ推ニテ但馬國七味郡



○ 雖然其生スル  
所其用スル所ニ  
足ラサルヲ前ニ  
述ルカ如シ然則  
連ニ方法ヲ下シ  
テ從事セスニハ其憂ヒ將ニ至ラントス。

之レカ最タリ其粟車ヲ大津驛ニ駕スルヲ觀ルニ壯大  
肥膾カラ能ク數十石ヲ輓ク今若シ西洋良牡數  
百頭ヲ購ヒ配シテ以テ子ヲ息セバ數十年ヲ出スニテ  
其尤ナル者數千万頭ヲ西道ノ地ニ得ヘキ也陸羽ニ  
至テハ三年前既ニ馬牛ノ良牡數十頭ヲ擇ヒ以テ  
之ヲ配セリ今ヤ其種或ハ當ニ二百頭ニ過クヘキナリ  
詩ニ云知ラス識ラス帝ノ則ニ頃フト維新以來 朝廷  
未タ牧畜ノ法ヲ荒クニ暇マアラスト 雖モ其ノ蓄息之  
ヲ三年前ニ較スルニ日ニ昌ニ月ニ熾ニナレハ天下ニ通シテ  
之ヲ計ヒニ其額ヲ増ス數万頭ニ下ラサルヘシ往時民部  
大藏合併ノ初ニ當リ臣建議シテ英種ノ豚ヲ購ヒ

僅カニ之ヲ雉子橋ナル牧畜邸ニ試験スルニ止マレルニ  
暇救社ナル者アリテ其意ヲ康ケ我邦アル所ノモノニ配  
セシヨリ今其天下ニ蓄息セル幾千百頭ナルヲ知ラサル  
ナリ豚ハ猪肉ニ供スルノニ猶且カクノ如ク也ヤ一日モ其  
用ヲ闕クヘカラサル馬牛ニ於テヤ政府苟モ意ヲ此ニ  
注シ授クルニ方法ヲ以テセハ其蓄息日ヲ指シテ跋ツハ  
キナリ但世ニ博勞ト稱スルモノアリテ馬牛ヲ販賣スルヲ  
以テ已レカ産トナシ 謠詐狡奸到ラサル所ナク價ノ高下  
皆其年ニアルニ由リ民未タ馬牛ヲ息スルノ利タルヲ知ラズ  
其蓄息セサル職トシテ是レニ之レ由リハ駭駒佳犢アル  
毎ニ輒チ官ヨリ價ヲ倍シ以テ之ヲ買ヒ民ヲシテ其利ノ



耕獲ニ愈レル有ルヲ知ラシムル<sup>是レ</sup>是レ今日ノ務ニシテ  
牧畜ヲ開クノ道此ヨリ急ナルハ莫キ也或曰ク子ノ言固  
ヨリ善シ然レ氏良牡ヲ西洋ニ購フ其費既ニ已ニ少  
ナカラスシテ今テ又價ヲ倍シ以テ駿駒佳犢ヲ買ハ馬牛ハ  
漸ク蕃息スルト雖氏其入ル出タスヲ償フ能ハサルニ至ラシ  
ト臣之レニ應テ曰ク千歳ノ計ヲ為ス者ハ一時ノ得失ヲ  
顧ニス夫レ<sup>又</sup>良牡ヲ西洋ニ購フ者唯其初メ止リテ駿  
駒佳犢<sup>ハ</sup>則チ配シテ以テ子ヲ息スルニ俟ズ耳其子  
既ニ息セリ強壯ナル者ハ以テ種トナスヘク孱弱ナル者ハ  
陰ヲ<sup>テ</sup>蹄トナシ馬ハ以テ農事及ヒ馬車ニ充テ牛ハ  
以テ肉食ニ供スヘシ夫レ<sup>蹄</sup>蹄トナスノ利ハ頃良馴レ易ク牝

騷

ニ遇テ驚カス重キヲ挽クノ力ヲ尋常ニ三倍ス故ニ牝牡  
相配<sup>テ</sup>馬車ヲ駕スヘク牝牡相群シテ同槽ニ食セシム  
ヘシ是レ駒犢ヲ待ノ法ニシテ牝牛ニ至リテハ其孱弱ナル  
者ヲ食シ其餘ハ以テ乳酪ヲ採ルニ供ス<sup>テ</sup>行フ数年  
倦マシハ牧必スシモ<sup>開</sup>開カス場必スシモ設ケスシテ天下ノ馬牛  
一トシテ強壯ナラサル者ナク復タ駿駒佳犢ヲ買フヲ用  
ヒサル也復タ良牡ヲ西洋ニ購フヲ用ヒサル也又何ノ其  
入ル出タスヲ償フ能ハサル<sup>カ</sup>カ之レ有ニヤ臣ノ容ト論ル所  
此ノ如シ且ツ臣向サキニ馬牛ノ事ヲ管シ深ク天下ノ故  
常ニ粗ルヲ慨キ建議請フ得テ野馬並ニ牧場ニ管  
スル所ノ佐倉小金ノ官林ヲ賣リ以テ英種ノ豚ヲ買ヒ



首トシテ屠牛所ヲ設ケ生皮ヲ収買シ十七万余金  
ヲ致ス其後生徒ヲ米國ニ遣ハシ及ヒ馬牛畚械ヲ  
購フモ亦皆資ヲ此ニ取レハ臣ニシテ牧畜ノ法ヲ開ク  
能ハスハ豈初志ニ負ト謂ハサルヘケニヤ臣當時民ノ  
馬牛ヲ販賣スルヲ禁シ謂ハル鑑札ナル者ヲ製シ其  
事ニ從フ者ニ與ヘ札トニ一圓ヲ稅ニ年ニ二万余千金  
ヲ得ヘシ是レ固ヨリ馬牛ノ出ス所ニ系レハ歲々此金  
ヲ以テ良牡ヲ西洋ニ購ヒ三陸二羽山鹿山陽九州  
及ヒ請フ所ノ國ニ配スルニ其費甚タ多カラスシテ其  
事モ亦甚タ難カラス今今日人々ヲ殺シ明日行フ可キ也  
蓋シ我邦物産ノ利ホト茶ニ如クハナキ者其輸出

ニ免ツヘキヲ以テナリ是勸業課ノ意ヲ致サルヘカラス  
ル所故ニシテ馬牛ニ至テハ其眼前ノ利ヲ收ル系  
ト茶トノ如キ能ハスト雖ハ人生一日其用ヲ瀕クヘカラス  
ル者ナレト授クルニ方法ヲ以テスルモ亦政府ノ義務ト  
ナスヘキナリ馬牛ノ相配スル年ニ其時アレハ一年其時ヲ  
失フ損スル所少シトナサレハ之ヲ行フ一日モ速カナラサル  
ヘカラス又安ニシ其時ヲ待テ未タ殺セスト謂フヲ得ニヤ  
然リト雖ハ馬牛ヲ息スルノ法モ亦甚タ難シ牝牡ヲ  
配合スル其道ヲ得サルヘカラス及孕否ヲ檢察スル其  
徴ヲ知ラサルヘカラス陰ヲ去リ驕トナス其術ヲ尽ミサル  
ヘカラス疾病ヲ一函治スル其学ヲ講セサルヘカラス其乳



汁ヲ拵シ白肉ヲ製シ難産ヲ救ヒ既舎ヲ作り畧  
械ヲ運ウス等ノ法指屈スルニ遑マラス是皆臣ノ  
海外ニ得ル所ニシテ天下ノ廣キ戸口トニ説キ人コトニ  
諭スヘカラサレハ安シク別ニ一場ヲ設ケ志アル者ヲシテ  
来リ其法ヲ学ハシムルニ若カニヤ向キハ政府此ニ見ル  
アリ駒場原ナル者ヲ開キ其後之ヲ外ニ付スト聞キ臣  
歸朝ノ日建議ニシテ再ヒ大藏省ニ歸セリ請フ此地ヲ  
以テ牧畜ヲ開クヘキ根本場ニ充テ西シテ購フ所  
ノ牝牡ヲ爰ニ育シ其配合ヲ請フ者ヲラハ各地ノ寒  
暖ニ隨ヒ其適スヘキ種類ヲ分ツテ以テ之ニ與ヘ授ク  
ルニ方法ヲ以テセハ豈ハ畜ノ開ケサルヲ憂ヘシヤ既ニ

此場有テ又試験場アリ同ク之レヲ勸業課ニ属セハ  
臣又勸農寮ノ廢セシヲ嘆セサル也顧フニ試験場  
ナル者ハ其務メ草木ヲ長シ綿羊ヲ養フニアリテ  
臣其法ヲ於テハ未タ一モ得ル所アラズ天下ノ為  
メニ馬牛ヲ蕃息シ以テ皇恩一方分一ノ報效ニ供  
セント欲ルニ過キサル而已抑臣海外諸國ヲ歴觀  
スルニ農事ニ至テハ一モ我國ノ精且密ナルカ若キモ  
ノナシ今又開クニ牧畜ノ法ヲ以テセハ稲粟地ニ滿チ  
馬牛野ヲ蔽ヒ其富実一方國ニ對タル者當ニ百  
年ヲ待タサルヘキ也臣慨嘆ノ至ニ堪ヘス敢テ所見  
ヲ陳スル此クノ如シ閣下若シ採ルヘシトナサハ請フ



座ヲ賜ヒ以テ其方法ヲ問ヘ臣將ニ詳悉具陳シテ  
遺ス所無カラントス若シ採ル可カラストセハ請フ速ニ  
骸骨ヲ賜ヘ臣田アリテ由良浦上ニアレハ帰耕以テ  
駒犢ヲ買ヒ自カラ其学ヲ所ヲ行ハントスル也唯閣下  
之ヲ裁セヨ臣守應誠恐誠惶昧死謹言

此書ハ予カ本月八日在マツル所ニ係ル越ニ曾式部寮  
ヨリ召マテリ曰ク明日午前第九時盛服入 朝セヨト  
乃六竊カニ以謂ラク予カ言果シテ採ル所ナシ故ニ賜フニ  
骸骨ヲ以テスルニ予明治元年ヨリ仕ヘテ官ニ在ル  
今ニ六年ニ近カシ未タ消埃ノ報アラスト雖氏幸ニ谷  
鉞ニ膏ラスルイラ免カレテ無事ニ職ヲ解クヲ得ルモノ  
何ノ賜モノカ之ニ如カント座ニテ以テ旦タヲ待ツ十五日  
入テ 命ヲ受レハ則チ期スル所ノ如シ因テ敢テ位記  
ヲ返上セシヲ請フ主任者意ヲ内閣ニ陳ス内閣  
旨ヲ傳ヘテ曰ク位階復カラク旧キニ仍ルヘシ必スシモ苦  
慮スル勿レト予感泣スル一之ヲ久ウス退 朝ノ後將ニ



速カニ任ラ治メテ以テ帰ラントス忽チ又自カラ謂フク  
予家ニ双親アリ向キ予ノ海外ニ在ルヤ父病ヲ以テ  
歿シ母獨リ存セルヨリ其憂慮時トシテ寢食ヲ廢  
スルアルニ至ルト聞キ一念此ニ至ル未タ嘗テ回望シ淚  
下ラスニハアラサルナリ既ニ帰朝スレハ偶母モ亦病ニ卧セ  
リト聞ク乃チ朝ニ請ヒ歸養教日遂ニ家人ト看  
獲シテ東京ニ來レリ一家團栗ノ喜ヒ其病ヒ尋イニ  
愈ルト雖年既ニ七十有ユアルニ侍養未タ数月ナラス  
ニテ又遽カニ其歸リヲ促サハ適以テ其憂慮ヲ重ヌ  
ルニ足ルルニ若シ暫ク擔ラ此地ニ緩クシ今茲秋霜既  
ニ降ルニ當テハ同ク車ヲ海晏寺ノ楓葉ノ下ニ停メ明

年春風方酣ナルニ迨テ共ニ舟ヲ墨陀川ノ櫻花ノ陰  
ニ棹サシ彩衣歌舞シテ歡ヲ膝前ニ秉ケ然ル後終  
リテ故園ニ送ルモ未タ必スシモ晚ニトナサハキナリ然  
ラハ則チ官ヲ奉スル終ヘスト雖年親ニ事ルニ至テ庶幾  
クハ憾ニ無ラシ乎獨リ惜ラクハ予天恩ヲ辱クニテ  
國民ノ為ニ牧畜ノ法ヲ海外ニ求ルル年ヲ経タレハ  
縱ヒ予カ言ラシテ果シテ採ル所無カラシムルニ其術ニ  
至テハ未タ必スシモ得ル所ナクニハアラサレナリ苟モ得ル  
所有テ人ニ益スルヲ能ハス徒ラニ之ヲ帳中ニ必セハ  
是天恩ヲ私スルナリ予ヤ既ニ骸骨ヲ賜ヒテ間  
散ノ優游スレハ進退去就皆綽々然トシ餘裕アリ



夕定晨省ヲ除クノ外ハ復タ昔日ノ如キ勿劇ノ  
務メアル無ケレハ得ル所ヲ以テ有志ノ士ニ傳フル此時  
ヨリ善キハ莫クシテ或ハ亦以テ消埃ノ報ニ充ツルニ足  
ラニ顧フニ世ノ師タル者ヲ觀ルニ口ヲ傳習ニ藉シテ  
以テ其利ヲ射セント欲スル者多ケレハ人必ス予ヲ疑フ  
テ以テ此輩ニ同シト為ス者アラニ予ノ牧畜ノ法ニ於  
ケルハ決シテ然ラス其志初メヨリ天下ヲミテ矜式ス  
ル所アラシメント欲スルニ過キサレ唯來リ學フ者ノ志  
何如ヲ顧ルノミ鉛鉄ノ利決シテ問フ所ニ非ルナリ  
然トモ師ニ就ク必ス束脩ヲ行ス古ノ礼ニシテ教ヲ兼  
クルニ資無キヲ耻ツルハ人情ノ已ムラ得サル所ナレハ人

若シ其礼ヲ受ケスシテ得ル所ヲ傳習セント言ハハ人  
或ハ耻ツル所アリテ敢テ來リ學フ者無カラシテ恐ル  
故ニ假リニ束脩ヲ定ムル或ハ一朱ニ出テス或ハ十錢ヲ  
率トス苟モ此礼ヲ行ヒ來リ學フヲ請フ者アラハ牧畜  
ノ法ニ於テ一モ遺ス所ナク必ス其蘊底ヲ盡サニ是予  
ノ以テ 天恩ニ報スル所ニシテ其志初ヨリ此ニ在ルヲ  
以テナリ因リ首メニ先日上ル所ノ書ヲ掲載シ讀ムモ  
ノヲシテ予カ以テスル所ヲ知ラシメ後チニ海外ニ得ル  
所ヲ條舉シ以テ其採擇ニ供スト云爾

牛馬ヲ配合セシムル術

後チ其孕ムヤ否ヤヲ檢知スル法



方孕タル牝牛扱方ノ法

牛馬共ニ陰ヲ去リ驕トナスノ法

四足ニ病アル馬筋ヲ絶テ療スル術

生乳中ニ水分ノ有無ヲ檢知スル術

生乳中ニバターノ多少ヲ檢知スル術

チーズヲ製スルノ法

犢牛ノ肉ヲ白クシ食用ニ供スル法

和蘭ニテ冬日牛ヲ舎飼スル法

生乳ヲ分拆スル法

フリツキニ入ル、肉類ヲ製スル法

コンデンスミルクヲ製スル法

蕃殖ニ用ル牛ノ撰ヒ方

牛ニ鋏沓ヲ打ツ事

乳汁ノ多キ牛ノ外相ヲ知ル事

是唯其梗概ヲ挙タルニ夫ノ細目小節ノ如キハ

將ニ来リ学フノ日ヲ待タントスルナリ



